

大腸癌全国登録を用いた術後化学療法に関する研究のお知らせ

第1版

帝京大学医学部附属溝口病院, 国立国際医療研究センター病院, 慶應義塾大学病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間: 2021年11月24日 ~ 2025年12月31日

〔研究課題〕 全国大腸癌登録を利用した術後化学療法の最適化に関する研究

〔研究目的〕

大腸癌の手術時にリンパ節転移を認めた場合、再発予防のための抗癌剤治療を行うのが標準治療となっています。これまでフツ化ピリミジン系薬剤が用いられていましたが、オキサリプラチンという薬剤を併用することで再発・死亡率の低下が海外からは報告されています。本邦でもオキサリプラチンが有用な患者さんがいるかを検討することが目的です。

〔研究意義〕

オキサリプラチンが有用な患者さんがわかれば、その患者さんにとって有益であるばかりでなく、オキサリプラチンが効かない患者さんにとっては不要な抗癌剤治療が避けられることとなります。

〔対象・研究方法〕

2008年から2011年に大腸癌研究会参加施設において治療され、大腸癌全国登録に登録された約7000例のStage III 大腸癌の患者さんが対象です。年齢、性別などの臨床情報とともに、リンパ節転移を有した患者さんに対する補助化学療法とその治療成績について、統計学的に解析し、使用薬剤別の治療成績を明らかにします。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属溝口病院: 研究代表者 小林宏寿 外科 教授,

国立国際医療研究センター病院: 研究責任者 山田康秀 がん総合診療センター センター長,

慶應義塾大学病院: 研究責任者 長島健悟 臨床研究推進センター生物統計部門 特任准教授

〔個人情報の取り扱い〕

本研究で用いられる大腸癌全国登録データは、個人の同定につながる情報(氏名や治療施設名)は含まれない、匿名化済みの情報です。

〔その他〕

本研究で患者さんに不利益は生じないと考えられますが、謝金も発生しません。

対象となる患者さんまたはご遺族様で、検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者:氏名 山田 康秀 職名 センター長
所属: 国立国際医療研究センター病院 がん総合診療センター
住所: TEL: 03-3202-7181